ビジネス英語の授業で活用する映画

—言語活動と学習者の反応を中心に—

Movies Used in Business English Courses: Focusing on Language Activities and Learner Feedback

久　世　　恭　子

1. はじめに
2. 研究の背景
　(1) 教材としての映画
　(2) ビジネス英語と映画
3. 研究方法
　(1) 対象授業と参加者
　(2) アンケート調査の方法
4. 言語活動の目的と実践
　(1) 語彙力の向上、表現の習得
　(2) リスニング能力の育成
　(3) スピーキング能力の育成
　(4) リーディング及びライティング能力の育成
　(5) 批判的思考力の育成
5. 学習者の反応
　(1) ビジネス英語の授業で映画を教材とすることについて
　(2) 教材としての良い点
　(3) 言語活動の評価
　(4) 授業全体に対するフィードバック
6. おわりに

1. はじめに

本論では、大学のビジネス英語の授業で用いる映画について、主に言語活動に焦点を当てて議論する。英語授業での映画はどのような目的の持ってどのように使われるのか、また、学習者はそれらの活動や授業にどう反応するのかを分析し、教材としての映画の可能性を考察する。

英語学習において映画が格好の教材になり得ることは多くの教員が認識するところである。学習者にとっても、映画は映像を楽しみ外国の文化にも触れながら勉強できる教材である。また、映画は日常会話など生きた英語の宝庫であり、経営学を専攻する大学生向けの授業でビジネス関連の映画を使えば、ビジネス現場での表現やコミュニケーションの仕方を学ぶことが可能となるだろう。しかしながら、こうした映画の有用性についてのイメージに比べて、具体的な言語活動に関する研究や実践報告はまだ少ないように思われる。そこで、本論では実際の授

業で行われている活動やタスクを紹介し、それに対する学習者の反応を分析することにより、映画の「使い方」にフォーカスした議論を行う。取り上げる映画は、いずれもビジネスの映画としてよく使われている『プラダを着た悪魔』（*The Devil Wears Prada*、以下、*Prada*）『マイ・インターン』（*The Intern*、以下、*Intern*）『マネーボール』（*Moneyball*、以下、*Moneyball*）の３点である。

研究課題は、1）映画を教材とするビジネス英語の授業では、それぞれの目的を達成するためにどのような言語活動の実施が可能であるか、2）学習者はそれらの活動や授業にどのように反応し評価するのか、と設定する。

2. 研究の背景

まず、英語教育で使われる映画一般についてその意義や課題をまとめ、次に、ビジネス英語の授業で使うのに適した映画に言及して、本研究の背景を述べる。

(1) 教材としての映画

Heafner (2004) は、今世紀初頭に「外国語学習とメディアやテクノロジーを組み合わせることは今日よく行われている方法である」（p. 108, 筆者訳）と述べたが、近年、映画の利用は教室でのテクノロジーの発展と共に増えてきた。コロナ禍のオンライン授業でも、Kuze (2022) で示したように、同期型（リアルタイム）授業で映画を教材とすることが可能であった。さらに、映画を単独で使うだけでなく、他の媒体や教材と組み合わせることもしばしば行われている。例えば、英文学の作品と共に翻案としての映画を授業で使い、読み手の理解を深めたり解釈の違いについての議論を引き起こしたりすることに注目した研究もある（e.g. Paran & Robinson, 2016; Saito, 2020）。

では、英語学習で映画を使うことの意義は何であろうか。Edasawa et al. (1989) は、先行研究を統合しその長所と短所をまとめているが、長所として、教室にリアルな状況を持ち込めるオーセンティック教材であること、学習者のリスニングに対するモチベーションを高めること、学習者の視覚に訴え理解を促すこと、社会文化的な情報を提供すること、自然に話される生きた英語に触れられることを挙げている（筆者訳）。オーセンティック教材としての映画の価値を指摘する研究は確かに多い（e.g. Kuze, 2020）。一方、短所としては、教室で使うには娯楽性が強過ぎる場合があること、話される言葉が外国語学習者にとってはしばしば速すぎて難しいこと、授業時間に比して映画は長く使いにくいことを指摘している（筆者訳）。他にも、映画を授業で視聴することは受け身の作業になりがちであるという懸念の声もある。

近藤（2015）のように映画利用の有用性としてリスニング能力の向上を主張するリサーチは多い。映画を使った英語の授業を受ける学生は受けなかった学生よりも事後テストでリスニング力の伸び方が高いことを示したものである。それに対し、角山（2008）は、映画活用についてこれまでの歴史を辿り、リサーチを検証して、「『大意把握⇒具体的な内容理解⇒正確な理解』という流れに沿った段階式のリスニング指導を行ってゆくことにより、映画を活用しながら学習者のリス

ニング能力を向上されることが可能であること」（p. 137）を実験によって実証した。

リスニング能力の向上以外に注目したものの中には、英語映画は語用論的能力を育成するのに役立つと結論付けた研究（川崎・柾木, 2016; ショルティ・柾木, 2017）、映画を活用した文法指導についての研究（松浦, 2022）、批判的異文化能力の育成を論じた研究（Karatsu, 2016）などがある。

(2) ビジネス英語と映画

ビジネス英語の授業の中で映画を教材とする場合、必ずしも会社やビジネスの場面をセッティングとする映画を用いなければならないわけではない。本論で対象とする『マネーボール』は、プロ野球球団というスポーツ界に焦点を当てた映画であり、ビジネスとの結び付きはそれほど多くない。また、Kuze (2022) は、貴族に仕える執事の半生を描いた英文学作品 『日の名残り』の映画を、ビジネスに通じる要素に注目しつつビジネス英語の授業で用いた例を示した。しかし、現代のビジネス界を舞台にした映画を使用すれば、学習者は語彙や表現と共に職場の雰囲気やそこで働く人々の仕事に対する姿勢などを直接的に学べるので有益であることは言うまでもない。

後宮（2023）は、長年、メディア・映画産業に携わってきた経験から、将来の仕事に関連する映画を教材として使うことの重要性を強調し、「ビジネスコミュニケーションに役立つおすすめ映画 10 選」を提示した。そこでは、*Prada*、*Intern*、*Moneyball* がそれぞれ１位、２位、3 位を占めている。本論の執筆者はそれらをここ数年の間にビジネス英語の授業で使った経験があることから、今回、特に映画利用に伴う言語活動に焦点を当てて映画の教材としての可能性を論じることとした。

3. 研究方法

始めに本論の調査で対象とした授業と参加者について説明し、次にアンケート調査の方法について述べる。

(1) 対象授業と参加者

本論では、私立大学経営学部の必修科目である「ビジネス英語 II」のうち、執筆者が担当する映画を教材として用いた授業を研究対象とする(1)。2021 年度秋学期に *Prada* を用いた２コースと、2023 年度春学期に *Intern* 及び *Moneyball* の２作品を教材とした２コースである。*Prada* はジャーナリストを夢見る若い女性が悪魔のように要求の多い上司のもとファッション業界で働き成長する様子を描いた映画、*Intern* はスタートアップの衣料通販会社に入ったシニア・インターンと若き CEO の話、*Moneyball* は旧態依然の野球業界で統計的手法を用いて球団を率いるマネージャーとそのアシスタントの活躍を描いた映画で、いずれも舞台はアメリカである。

授業はすべて 90 分で週 1 回の 15 回であるが、*Prada* には映画の視聴や活動に

授業 12 回を使い、*Intern* と *Moneyball* には 6 回ずつ合計 12 回を使った。授業形態は、*Prada* の授業は Zoom を用いた同期型オンライン形式と対面形式の混合、*Intern* と *Moneyball* の授業は全面的に対面式で行った。第 1 回授業ではオリエンテーション、最終回授業では復習と試験を実施し、また、中間プロジェクトでは自分の好きな映画についてのプレゼンテーションをしてもらったが、それらは本論の研究対象外としている。両コースともそれぞれ大学英語教育用の教科書、*Communicate in English with "The Devil Wears Prada"*、*Active English Through Movies: "Bohemian Rhapsody", "The Intern", "Moneyball"* を使用し、後述する言語活動にはこれらの教科書に掲載された活動も含む。

研究参加者である受講生は全員が経営学部に所属し、ほぼ全員が 2 年生である。英語能力は TOEIC のスコアで 300-800 以上と幅広く、平均はクラスによっても異なるが、概ね 450-500 点である(2)。

(2) アンケート調査の方法

映画を教材とする一連の授業が終了した後でオンラインによるアンケート調査を実施した。*Prada* の授業では 15 回目の最終授業で manaba（教育支援サービス）のアンケート機能を用いた。また、*Intern* と *Moneyball* の授業では、それぞれ 6 回の授業の後で Google フォームのリンクを示してアンケート調査を実施した(3)。*Intern* と *Moneyball* は同じコース内で用いたので、受講生は同じであり、アンケートの回答者もほぼ同一ということになる。最終的なアンケート回答数は *Prada* の授業が 2 クラス合わせて 65 名、*Intern* で 71 名、*Moneyball* で 73 名となった。ただし、質問項目によって回答数が変わる場合がある。

倫理面への配慮としては、調査の目的や内容を受講生に詳しく説明し、理解と協力を得られた方のみに任意で参加をお願いすることとした。さらに、アンケートの最後に、「調査結果を匿名で研究目的に使用することに同意をする」という項目を設け、そこにチェックのついたデータのみを使用した(4)。

既に述べた研究課題に答えるために、アンケート調査の質問を以下の通りに設定した。

［アンケート調査の質問と回答方法］

1. ビジネス英語の授業でこのような映画を教材とすることについてどう思いますか（リカート尺度）
2. 映画を教材とすることの良い点はどのようなものですか（複数選択）
3. 自分がしっかり取り組めたと思う活動はどれですか（複数選択）
4. 英語力向上に役立つと思う活動はどれですか（複数選択）
5. 授業や活動について自由に書いてください（自由記述）

4. 言語活動の目的と実践

本節では、映画を教材とした言語活動について、その実施の目的を軸にして 3 つの映画を横断的に論じる。外国語教育の授業では、教材を用いて言語活動を行

う際、その活動は何のために行うのか、その活動により学習者の能力や意識などのどの部分を改善または向上させられるのかを教員が考慮して活動をデザインする。

(1) 語彙力の向上、表現の習得

大学英語授業用の教科書を用いる場合でも教員が独自の教材を作成する場合でも、実際に映画を観て活動を行う前後に pre-viewing activities、post-viewing activities の言語活動を行うことが多い。そして、通常、pre-viewing activities で映画に出てくる単語や表現を学ぶ活動を行う。英単語や表現とその定義（英語または日本語）を結び付けるマッチング問題が多いが、執筆者の授業ではこれを予習として自分で行ってもらい、毎時間、授業開始時に教育支援サービスを用いてオンラインで単語テストを行っている。ビジネスの映画を教材とすれば自ずと単語や表現もビジネスや日常会話に使えるものが多くなるが、小テストを行うことで単語や表現習得の定着を図ることができる。

(2) リスニング能力の育成

映画を教材としてリスニングの活動を行う方法はいくつかある。まず、音声を聞いてスクリプト（台本）の一部を書いてもらうものである。これは、ディクテーションのように文全体を書いてもらうこともあるし、文の中のいくつかの語だけを書く、いわゆる穴埋め式で行うこともできる。また、英語の音声を聞いてもらうだけでなく、日本語字幕を示して日本語から英語を推測してもらうこともでき、その場合はリスニングだけでなく総合的な英語力を育成することができる。

さらに、単に音声を聞き取るだけでなく、質問に答えるために内容を把握する練習も可能で、これはノートテイキングに近いタスクと言える。以下に、そのような活動に使った質問文の例を示す。

【*Intern*】

1. Which sections are the new interns going to be working in?
2. What is some of the advice Becky gives to Ben?
3. According to Jules, why is Ben being assigned to her?

（*Active English Through Movies: "Bohemian Rhapsody", "The Intern", "Moneyball",* p. 51 を参照）

この場合、1.のように事実を聞き取り数個の単語で答えられるもの、2.のように聞き取った情報を整理しながら答えなければならないもの、3.のように聞き取った情報をもとに自分の英語で考えを説明しなければならないものと、徐々に英語と認知レベルが高度になっている。授業の目的や学習者の英語力に応じて、それぞれの設問を適度な割合で取り入れることが必要となる。

(3) スピーキング能力の育成

映画でスピーキングを行う典型的な活動は、台詞を用いてのロールプレイである。台詞の一部をリスニング活動で聞き取った後、その部分を使ってペア・グループでロールプレイをすれば、受講生が場面や内容を理解し記憶していることから効率がよい。しかし、台詞を暗記するレベルまで練習を重ねず、ただ1回発声しただけでは発音、イントネーション、表現そのものが身につかず余り意味がないかもしれない。映画の音声を繰り返しよく聞いて練習することが必要となる。

台詞を使った練習以外のスピーキングとして、映画視聴の前後に教員が質問を投げかけ、ペアやグループで英語によるディスカッションしてもらうものがある。英語のディスカッションは初級レベルの受講生には難しいので、その場合はディスカッションで使える表現を教員が予めいくつか提示しておく。以下の例は、ディスカッションのトピックにも自分のことについて話す比較的やさしいものから映画の内容に踏み込んだ難しいものまで幅があることを示している。

【*Prada*】

1. Tell your group about one of your friends or a member of you family. What do you have in common with them?
2. Andy used to make fun of the Runway girls. What did you used to do, but no longer do?
3. Andy has changed and grown. Nate hasn't. Is Nate making the right decision to end the relationship?

（*Communicate in English with "The Devil Wears Prada"*, p. 59 を参照）

(4) リーディング及びライティング能力の育成

リーディングやライティングの活動は映画の授業では通常取り入れにくいことから、それを補うために中間プロジェクトとして好きな映画（My Favorite Movie）について原稿を書きプレゼンテーションをしてもらった。しかし、実際には通常授業の中でも、教科書で英語の批評やプロットを読むことは多いし、また、リーディングとライティングの組み合わせとして、次の(5)で示すような活動もある。授業では、自分の意見を英語で書いてもらう機会をできるだけ多く持つように努めている。

(5) 批判的思考力の育成

映画を大学授業の教材として用いる場合には、単に言語スキルを向上させるだけでなく、批判的思考力を養成できるような活動、さらに、自分の意見を根拠を示しながら英語で説明できるようになる力の養成も必要であると考える。

例えば、自分が登場人物の立場であったらどんな行動をとるのか、それはなぜなのかについて英語で書く課題を出し、学習支援システムで提出してもらったり、授業中にペアやグループでディスカッションをしてもらったりした。以下に例を示す。

【*Prada*】

1. Would you do a job that you don't like if it opened doors for you?
2. Christian asked Andy if she could come inside to meet a famous editor. It was on Nate's birthday. What would you do if you were Andy?

（*Communicate in English with "The Devil Wears Prada"* を一部参照）

【*Intern*】

1. If you were Jules, would you hire a new CEO? Why?
2. If you were Ben, what advice would you give Jules about hiring a new CEO?

（*Active English Through Movies: "Bohemian Rhapsody", "The Intern", "Moneyball"* を一部参照）

上記の例は、すべて仮定法を用いた表現であることから、受講生は映画の内容を把握して自分の意見を構築するだけでなく、文法を復習して実際に使用することができる。教員は事前に文法の要点をハイライトしておくことが望ましい。

さらに、短く簡潔な映画の批評（review）を提示し、それに対して自分はどう思うか、英語で意見を書いてもらう活動も可能である。ここでは、教科書 *Active English Through Movies: "Bohemian Rhapsody", "The Intern", "Moneyball",* (p. 85) に掲載されている "Despite being a huge sports fan, I found *Moneyball* to be something of a disappointment."で始まる 117 語のネガティブな批評に対して自分の考えを書いてもらった。賛成と反対の立場から書いた受講生の意見を示す(5)。

I agree with this reviewer because there are some technical terms about the baseball. Anyone who are not interested in baseball may have trouble understanding. And since this film is based on actual events, the movie has few dramatic elements and predictable developments. Finally, portraying too many characters is one of the reasons to be disappointed. I can't remember all the characters' names, faces, actions and so on.

I don't know much about baseball, but I enjoyed watching Moneyball. Certainly, it was difficult to remember rules and characters. But it was exciting just watching the success of Bill and Peter. Also, Billy seems to be a cold person, but the scene where he talks with his daughter shows me his kindness. And his daughter's song was used very effectively for this film. In conclusion, I felt Moneyball is a great film.

受講生によって意見も英語のライティング能力も様々ではあるが、授業中に何度か類似の問題で練習をし、自分の意見を形成してそれを表すための英語を考えるための時間を与えれば、辞書や翻訳ソフトなどを使わずにこのような英文を書け

るようになる。

5. 学習者の反応

前節で紹介した言語活動は学期を通して行う授業での活動のうち、ごく一部であるが、それらの言語活動や授業について、受講生である学習者はどのような反応を示すのか、アンケート調査を実施した。その結果を提示する。

調査では、*Prada*, *Intern*, *Moneyball* の映画別に受講生の回答を示すが、それは３つの映画への評価や反応を比べることを目的とするものではない。2021 年度調査（*Prada*）と 2023 年度調査（*Intern* 及び *Moneyball*）では受講生・回答者が異なり、*Intern* と *Moneyball* の調査ではほとんどが両方のアンケートに回答していること、また、使用教科書も違うため言語活動の目的や種類も大きく異なっているので映画別の有用性を比較することはできない。さらに、*Prada* は１学期を通して使用したが、*Intern* と *Moneyball* は１学期に２作品使い、それぞれ６回のみの授業時間でカバーしたので使い方が全く異なるということになる。

(1) ビジネス英語の授業で映画を教材とすることについて

まず、受講生がビジネス英語の授業で映画を教材とすることについてどう思っているのかについて調査した。リカート尺度（５件法）により答えてもらった結果が表１である。

表１　映画を教材とすることについての受講生の評価

	良いと思う	まあ良いと思う	どちらともいえない	余り良いとは思わない	良いとは思わない
Prada を使った授業　n=65	78.5% 51 人	20.0% 13 人	0	0	1.5% 1 人
Intern を使った授業　n=69	56.5% 39 人	39.1% 27 人	2.9% 2 人	1.4% 1 人	0
Moneyball を使った授業　n=71	57.7% 41 人	36.6% 26 人	4.2% 3 人	1.4% 1 人	0

全体的に肯定的な回答が多いが、*Prada* の授業では８割近くの受講生が「良いと思う」と答えており、*Intern* と *Moneyball* よりかなり評価が高いことがわかる。その理由は、*Prada* は映画自体の音声が他の２作品に比べて聞き取りやすいこと、１学期に１作品というペースで使ったため視聴や活動に十分に時間をかけることができ、学習者も余裕を持って取り組めたことなどが考えられる。回答の理由については 以下の (2)～(4) も参照されたい 。

(2) 教材としての良い点

複数回答可として選択肢を与えて回答してもらった。上位の選択肢と回答数を示したのが表２である。2021 年実施のアンケートと 2023 年のアンケートには選択肢の表現にわずかな違いがあったので、それらを統一して示した。

表２　これらの映画の教材としての良い点

選択肢	*Prada* n=65	*Intern* n=69	*Moneyball* n=72
楽しみながら学ぶことができる	49 (75.4%)	57 (82.6%)	49 (68.1%)
生きた英語や日常会話に触れられる	46 (70.8%)	42 (60.9%)	40 (55.6%)
ビジネス英語の表現を学ぶことができる	33 (50.8%)	24 (34.8%)	33 (45.8%)
英語圏の文化を学ぶことができる	29 (44.6%)	35 (50.7%)	29 (40.3%)
リスニング能力が向上する	—	33 (47.8%)	36 (50.0%)
語彙力が向上する	—	16 (23.2%)	15 (20.8%)

どの映画についての調査でも、「楽しみながら学ぶことができる」を半数前後の回答者が選んでいる。次いで、「生きた英語や日常会話に触れられる」が多く、その次に「ビジネス英語の表現を学ぶことができる」「英語圏の文化を学ぶことができる」を３割前後の回答者が選択している。「リスニング能力が向上する」「語彙力が向上する」は、2021 年の調査では選択肢を設けなかったため映画による比較はできないが、2023 年度調査の結果によると、３割以上がリスニング能力向上に関して映画という教材を評価していることがわかる。

(3) 言語活動の評価

①　自分がしっかり取り組めたと思う活動

表３　しっかり取り組めたと思う活動

選択肢	*Intern* n=69	*Moneyball* n=72
単語の勉強	43 (62.3%)	47 (65.3%)
映画を観ること	43 (62.3%)	47 (65.3%)
ペア・グループワーク	35 (50.7%)	31 (43.1%)
リスニング、ノートテイキング	24 (34.8%)	27 (37.5%)
読解	23 (33.3%)	19 (26.4%)
和文英訳	8 (11.6%)	15 (20.8%)
その他（模擬面接、字幕作りなど）	8 (11.6%)	13 (18.1%)

②英語力向上に役立つと思う活動

表４　英語力向上に役立つと思う活動

選択肢	*Intern* n=68	*Moneyball* n=71
単語の勉強	42 (61.8%)	43 (60.6%)
映画を観ること	30 (44.1%)	38 (53.5%)
ペア・グループワーク	28 (41.2%)	30 (42.3%)
リスニング、ノートテイキング	37 (54.4%)	35 (49.3%)
読解	32 (47.1%)	35 (49.3%)
和文英訳	22 (32.4%)	18 (25.4%)
その他（模擬面接、字幕作りなど）	7 (10.3%)	13 (18.3%)

受講生自身がしっかり取り組めたと自己評価している活動について質問した結果を表３に、英語力向上に役立つと思う活動について質問した結果を表４に示した。2021 年度調査ではこれらの項目を設けなかったので、2023 年度調査での２つの作品について複数回答で選択肢を選んでもらった。

「自分がしっかり取り組めたと思う活動」と「英語力向上に役立つと思う活動」にどちらの映画に関しても６割以上が「単語の勉強」を挙げており、毎週の予習や授業での小テストによってビジネスや日常生活に関する単語や表現の習得に努めていたことがわかる。「映画を観ること」も同様に６割以上がしっかり取り組んだと答えているものの、英語力向上に役立ったかについては５割程度となっている。逆に、「リスニング、ノートテイキング」に関しては、しっかり取り組んだという回答は 30-40%程度と多くないものの、英語力向上に役立ったという回答は 54.4%、49.3%と高い割合になっている。読解力については、*Intern*、*Moneyball* では教科書に各種の批評やプロットの説明が多く掲載されていたせいか、読解力向上の面で役立ったという回答が５割近くあった。従来の研究では、映画の活用がリスニング能力向上に役立つことを実証しようとするものが多かったが、この調査により、語彙力向上や表現の習得、また、ペア・グループでの練習やディスカッション、読解にも受講生がしっかり取り組み、英語力向上に役立ったと感じていることがわかった。

(4) 授業全体に対するフィードバック

アンケートの最後に、授業や活動についてそれまでに書けなかったことも含め自由に書いてもらった。それをカテゴリーに分け、受講生の声を記述する。特徴的な箇所を下線でハイライトした。

①映画を教材とすることについて

- 映画一本まるまるつかって英語を学ぶというのは初めてだったが、普通に教科書とかで学ぶより楽しく学べたのでよかった
- 洋画を見ることはよくあるが、実際のネイティブの英語を教材にして勉強したことはなかったため、楽しかった
- クラスメートとの会話の話題に上がることも多く、楽しく学ぶことができました
- 英語学習はとても大変で辛いイメージでしたが、映画を使って勉強する事はとても楽しく、少し英語学習のイメージ変わりました
- １つの映画で英語を学ぶのに初めは驚きましたが、教科書通りの英語ではなく、会話を見て勉強することで、生に近いコミュニケーションについて学ぶことができてよかったです
- 勉強感が少なく、映画を理解するために学習している感じで面白さがあった。映画の展開などがあるので飽きることがなかった
- 海外のビジネスの感じや文化がよく分かるなと思いました
- 英語の授業はあまり得意ではないのですが、映画を見ながら学ぶことができて楽しか

ったです

- 自分自身ほぼ初めてと言っていい海外の映画だったので、海外の日常での英語のスピード感に触れることができたのが良かった
- 実際の映画での使われ方を学ぶことでよりリアルなものを体験できました
- 洋画はリアルな英会話を観られるからいいと思った

②授業のやり方について

- これまでの英語の授業の中で最も苦痛でなく一番身についた授業であった
- 映画が 1 つだと飽きていたと思うので 2 つで良かったと思います
- ボキャブラリーチェックや教科書の音読など各パートに使う時間が毎回しっかり決められていたので、90 分があっという間に感じるくらい飽きることなく授業に取り組むことが出来ました
- 授業全体としては教科書だけを使って英語を学ぶクラスより楽しく学ぶことができました
- 本物の英語に触れる機会は少ない為、このようにして作ってくれる所がありがたいです
- ペアワークに英語で取り組みたいと思っていても、相手が日本語で話してくることが多く、英語の学習にならないことが多くありました
- 映画が部分的にしか見られないのが残念だった
- 毎回途切れ途切れで短くしか見られないので内容があまり入ってこなかった感はありました

③英語学習へのモチベーションに関するもの

- ストーリーの中で英語が学べるので、続きが気になって授業が少し楽しみになる
- 他の海外の映画もたくさん見てみたいと思うようになった
- 有意義な勉強法だったと思うので、今後、英語の学習をする時に他の映画でも試してみたいと思います
- 能動的に学習しようという気持ちになれてよかった
- 思っていたよりも洋画が面白く、これからも洋画に挑戦していきたいと思いました
- 映画の内容、展開が気になるので、毎週休まずに出席することができた
- 他の似たような洋画を見るきっかけにもなってモチベーションが上がった気がします
- 映画を見て学ぶというのは何よりモチベーションが維持される

② 英語力向上に関連して

- ただ単にリスニングの音源を聴いているのではなく、会話のイントネーションや実際のシチュレーションと一緒に聴けるのでとても頭に入ってきやすかった
- 映画を教材とすることで、実際の会話のスピードで英語を聴く練習をすることができました
- ただ教科書で重要な文法だけを学ぶより今回のように映画を見てその中で文法や大

切な表現を学ぶことができたほうが勉強していて楽しかったし、予習・復習もしたいと思えるようになったかなと思いました

- 日本語字幕、英語字幕の表示非表示が簡単にできるのが英語の理解に役立っていると感じた。教科書と映画での訳し方の違いもまた勉強になって面白かった
- 今まではリーディングを中心に学習してきましたが、この授業リスニング能力を向上させることができました。単純に、ただリスニングをするのではなく、映画のセリフが基になっていたので、興味を持って学習することができました
- 英語を身近に感じることができた。また、日常的な英語の使い方を学ぶことができた
- 実際に使われている英語の本質が理解できる。単語帳では学べない単語に多く触れることができるので語彙力の向上に繋がっていいと思う

本節（2）の表２でも示したように、受講生の反応には「映画を使う授業は新鮮で、楽しみながら学習できる」という声が圧倒的に多かった。特に、英語が得意でない受講生にとって、映像があり娯楽性を持つ映画という教材の役割は大きいことがわかった。また、他の教材には余りない生きた英語に触れられる、実際の言語使用の中で英語を学べるという指摘も多かった。言語能力やスキルに関しては、「(3) 言語活動の評価」でも示した通り、映画は語彙力やリスニング能力向上に役立つという認識が高いようであった。小テストを毎週実施する授業のやり方に因るかもしれないし、受講生は TOEIC などの民間外部試験受験を意識して日頃から語彙力増強に関心を持っているからかもしれない。

授業運営については、大多数の受講生が様々な言語活動を取り入れたことを評価してくれている反面、映画の中の一部だけを使うことについての不満も聞かれた。これに関しては、角山（2008）が、「動機づけの面においても、必ずしも映画の全編を視聴させる必要はなく」（p. 138）と述べているが、実際、授業時間は限られており、多くの言語活動を取り入れるとその分映画を観る時間は減少する。特に、１学期間に複数の映画を使う場合には時間配分がより難しくなる。教員は他の教材を使う授業と同様、何に時間を使うか考え常に活動の取捨選択をしなければならないが、少しでも受講生に達成感や満足感を与えることができるよう工夫することが必要となる。

６．おわりに

本論では、経営学部の必修科目であるビジネス英語の授業における教材としての映画の可能性を、言語活動とそれに対する学習者の反応をもとに追究した。ビジネスの映画として定番とも言われている映画を実際に授業で使っている教員として、複数年度にわたって異なる映画を用いた授業を横断的に分析することにより、それぞれの映画に伴う言語活動の種類や学習者からの評価の相違を考察することが可能となった。

映画を使った言語活動について本論で強調したいことは、従来、映画を使う目的としてリスニング能力向上の研究や実践が注目されてきたが、映画はその使う目的によって様々な言語活動をデザインすることができ、その結果、リスニング

以外の総合的な英語能力を伸ばすことが可能であるということである。また、大学の英語授業で利用する場合には、批判的思考力や英語で論理的に意見を表明する力を養う活動や、映画視聴が受け身の作業にならないようアクティブラーニングの要素を取り入れたプロジェクト型の活動にもつなげることが求められると言える。

学習者の反応としては、受講生のほとんどがストーリー性に富み生きた英語に触れられる映画という教材を楽しみながら学習できると評価していることが確認できた。高校時代までの英語の勉強は紙の上のものが中心だったという回答もあり、そのような受講生は特に新鮮味を感じているようであった。また、思ったより英語に苦手意識を持っている受講生が多かったが、その場合にも学習にモチベーションを持ちやすいという声が聞かれた。

学習者のフィードバックから見た英語能力の向上に関しては、ビジネス・シーンや日常での単語や表現を習得することとリスニングに特に効果を感じているようであった。この授業により英語能力が飛躍的に向上するというわけではないだろうが、英語学習全体に対するモチベーションを高め、また、将来にわたって英語の映画に親しむ機会を提供できるならば、ビジネス英語の授業で映画を使う意味は大きいと感じている。

今後は、研究方法に改善を重ねながら教材としての映画の持つ可能性を研究し、授業実践に役立てたいと考えている。

---

*本論は、2023 年 10 月 14・15 日開催の JBCA（国際ビジネスコミュニケーション学会）第 83 回全国大会における発表原稿に、大幅に加筆修正を施したものである。

(1) 経営学部の必修英語の授業は、内容によって 12 コースに分かれており、映画を教材とする本コースはそのうちの 1 つである。

(2) アンケートの回答による自己申告のスコアであり、TOEIC ITP も含む。

(3) Google フォームを用いた方が匿名性を担保できると判断し、2022 年度からはアンケート調査にもできるだけ Google フォームを用いるようにした。

(4) 本論の調査では科目担当者が調査者となるため、可能な限り十分な倫理的な配慮を行った。本文中にも記したように、履修者には十分な説明をした上で任意参加のアンケートを実施した。

(5) 受講生のライティングに、本論の執筆者が最小限のエラー修正を施した。

参考文献

Edasawa,Y., Takeuchi, O., & Nishiaki, K. (1989). Use of films in listening comprehension practice. *Language Laboratory 26*, 19-40. DOI https://doi.org/10.24539/llaj.26.0_19

Heafner, T. (2004). Using technology to motivate students to learn social studies. *Contemporary Issues in Technology and Teacher Education 1* (4): 42-53.

Karatsu, R. (2016). Fostering critical intercultural competence in CLIL classes through films: A case study at a Japanese university.『映画英語教育研究』*21*, 129 – 142. https://doi.org/10.24499/atem.21.0_129

Kuze, K. (2020). An examination of the role of authentic materials in university business English courses. 『経営論集』96 号: 41-51.

Kuze, K. (2022). Using a film adaptation of a literary work in online teaching: A practice in online business English courses at a university. *The Pan SIG Journal 2021*, 8-13.

McKenna, A. 著, 角山照彦 & Capper, S. 編著 (2016). *Communicate in English with "The Devil Wears Prada".* 『「プラダを着た悪魔」で学ぶコミュニケーション英語』. 松柏社.

Paran, A. & Robinson, P. (2016). *Literature: Into the classroom.* Oxford, England: Oxford University Press.

Saito, Y. (2020). Pedagogical stylistics as a discipline for bridging the gap between literary studies and English language teaching in Japan. *Studies in English literature (Regional branches combined issue) vol.12*, 129-138.

Shiomi, K, Coomber, M. & Miyabayashi, K. (2021). *Active English Through Movies: "Bohemian Rhapsody", "The Intern", "Moneyball".* 金星堂.

後宮昌樹 (2023).「ハリウッド映画の字幕・吹き替えの違いから学ぶビジネス英語」JBCA 第 119 回関東支部研究会（東洋大学、オンライン併用） 口頭発表.

角山照彦 (2008).『映画を教材とした英語教育に関する研究』岡山 : ふくろう出版.

川崎沙織・柾木貴之 (2016).「映画を用いた大学英語授業―語用論的な力の育成をめざした事例の検討」『東京大学大学院教育学研究科紀要』*55*, 395-406.

近藤暁子 (2015).「映画を使用した日本人学習者対象のリスニング指導効果」『映画英語教育研究』 第 20 号, 19-32. https://doi.org/10.24499%2Fatem.20.0_19

ショルティ沙織・柾木貴之 (2017).「映画を用いた大学英語授業―語用論的な力の育成をめざした事例の検討」『東京大学大学院教育学研究科紀要』*56*, 421-436.

松浦加寿子 (2022).「映画を活用した関係詞と仮定法の指導法－効果的な文法指導を目指して」*JAILA Journal 8*, 65-74.

（2023 年 9 月 5 日受理）